

第1問

A

問1 《ポイント》 earがテストに出るのは次の3つ。頻度第10位!

- ① [eə]…「エア-」
(ex) bear[ベア-]「耐える」 wear[ウエア-]「身につける」 pear[ペア-]「洋梨(なし)」
- ② [iə]…「イア-」
(ex) beard[ビアド]「あごひげ」 weary[ウエアリイ]「疲れ切った」 fear[フィア-]「恐怖」
hear[ヒア-]「聞く」
- ③ [ə:r]…口をあまり開けずにノドの奥の方で「アー」。
(ex) earth[アース]「地球」 heard[ハド]「hearの過去形・過去分詞形」
search[サーチ]「検索する」 pearl[パール]「真珠」

會 earの発音は th 同様要注意。なぜなら

bear [ベア] wear [ウエア] pear [ペア] hear [ヒア]
beard [ビアド] weary [ウエアリイ] pearl [パール] heard [ハド]

というように、語尾が少し変化しただけで読み方が全然変わってしまうものが多いからだ。

それから ear の例外的発音として、ear が h と t にはさまれると、ear の読み方は [ɑ:r] (口を大きく開けて「アー」) になる。

(ex) heart [ハート]「心臓」 hearten [ハートウン]「元気づける」 hearth [ハース]「炉端、暖炉」
heartly [ハートイ]「心からの」

問2 《ポイント》 chがテストに出るのは次の3つ。頻度第12位!

- ① [tʃ]…「チッ」
(ex) arch[アチ]「アチ」 orchard[オーチャード]「果樹園」 watch[ウォッチ]「見る」
- ② [k]…「カ行」
(ex) monarch[マナーク]「君主」 ache[エイク]「痛み」 chronicle[クロニクル]「年代記」
stomach[スタマック]「胃」 architecture[アーキテクチャー]「建築」
architect[アーキテクト]「建築家」
- ③ [ʃ]…「シュ」「シャ」「シヨ」
(ex) machine[マシーン]「機械」 mustache[マスタシュ]「口髭(ひげ)」
chivalry[シバリー]「騎士道」 chauffeur[ショウファー]「おかけ運転手」
champagne[シャンペイン]「シャンパン」

會このうち特に「カ行」の読み方をする ch が一番よく出る。

問3 《ポイント》 ss

- ① [s]…「サ行」
(ex) guess[ゲス]「類推する」 message[メッスイジ]「伝言」 classic[クラシック]「古典的な」
success[サクセス]「成功」
- ② [z]…「ザ行」
(ex) dessert[デザート]「デザート」 possess[ポセス]「所有する」

- ③ [ʃ] ... 「シュ」「シャ」「ショ」
 (ex) passion[パッション]「情熱」 mission[ミッション]「使命」
 permission[パーミッション]「許可」 pressure[プレッシャー]「圧力」

㊦ 「-ssure」「-ssion」は[ʃ]と発音される。

B 《ポイント》

(1)アクセント問題高得点の秘訣。

- ①外来語の正しいアクセントをマスターする。
- ②アクセントのルールをマスターする。
- ③アクセント問題頻出の語をおさえる。

㊦ 外来語は特にアクセントの位置が(実際の英語の発音と)異なるものは要注意。

・アクセサリー accessory [アクセサリー]	・エネルギー energy [エナジー]	・アンテナ antenna [アンテナ]
・アスリート athlete [アスリート]	・エプロン apron [エイプロン]	・オープン oven [アヴン]
・アスレチック athletic [アスレティック]	・エレベーター elevator [エレヴェイター]	・オペラ opera [アプラ]
・アドバイス advice [アドヴァイス]	・エンジニア engineer [エンジニア]	・オープン open [オウブン]
・アベレージ average [アヴリッジ]	・オアシス oasis [オウエイシス]	
・アマチュア amateur [アマチュア]	・オーケストラ orchestra [オーケストラ]	
・アラビア Arabia [アレイビア]	・オフィシャル official [オフィシャル]	
・アルコール alcohol [アルコール]	・アルファベット alphabet [アルファベット]	

(2)アクセントのルールを覚える。

- ①ルールその1：アクセントを持つ語尾。(㊦印は頻出)

㊦ ' がついた文字にアクセントがある。

㊦(1)ee/eer	㊦(2)ology	㊦(3)oo/con	㊦(4)tribute
㊦(5)ique/esque	㊦(6)ental/ential	(7)naire	(8)ever
(9)self	(10)pose	(11)ade	(12)teen/teenth

[例外] ㊦committee ㊦coffee attribute(名詞) cuckoo
 「委員会」 「コーヒー」 「属性」 「カクウ」

②ルールその2：直前の音節にアクセントがある語尾。

「イティ・イク・イカル・ション」と覚える！			
-ity	-ic	-ical	-tion/sion
-ety	-ics	-ial	-ian -ion(al)
		-ual	-ient

Ⓢ -ly, -ing, -ed, -ment, -ness, といった語尾は、アクセントに影響を与えないので、例えば dramatically といった単語も ly はないものとみなして、ical の直前の音節のa(dramatically)にアクセントがあると判断すればいい。

Ⓢ 「イティ・イク・イカル・ション」のルールの例外となる単語で試験に頻出なのが以下。特に◎のついたものはしっかりおさえておきたい。

[例外] ◎politic	◎politics	◎lunatic	television	spiritual
「政治的な」	「政治(学)」	「狂人」	「テレビ」	「精神的な」
◎Arabic	◎Catholic	◎arithmetic		
「アラビアの」	「カトリックの」	「算数」		

③ルールその3：二つ前の音節にアクセントがある語尾。

「アテグラミズムアスティヴファイ」と覚える！					
-ate[-at]	-gram	-ism	-ous	(暗+)tive	-fy
-ude	-graph	-asm			
-ite		-ize			
-ute	☞-tributeは例外。				

Ⓢ このルールの例外となる単語で試験に頻出なのが以下。どれも(例外だけに)頻出なのでしっかりおさえておこう。

[例外] adequate	disastrous	enormous	impolite	patricism
「十分な」	「災害の」	「巨大な」	「無作法な」	「愛国心」

Ⓢ 「音節≡母音」と考えていいが、例外もあるのでそれらについては注意が必要。

(ex) mischievous

第2問

A

問1 《ポイント》 at と in と on の使い分け。

㊦「センター文法・語法スーパーチェック」27ページ。

Q. We set out () the morning of October.

- ①in ②at ③on ④for

上の問題の正解は③。「特定の日(の朝、昼、夕方)」等を表す名詞の前では on が好まれるのだ。(「私たちは十月のその朝、出発した」)。

「時」と「場所」を表す前置詞としての at, in, on の使い分けはよく問われるので注意。

	at	in	on
時	1点 (幅の狭い時)	幅の広い時	①特定の日(の朝・昼・夕方等) ②曜日
場所	1点 (狭い場所)	①広い場所 ②~の内部に、で	~に接して(上に) ~に面して、沿いに

(ex) at 9:30 in the 20th century on Monday
at noon in April on the morning of the day
at the store in Japan[Paris] on the ground
at the station in the room on the wall

「今日理科の授業で、私は塩水が摂氏0度で凍らないことを学びました」

問2 《ポイント》 「the+形容詞[分詞]」

英文中で「the+形容詞[分詞]」は以下の3つの意味のいずれかを表している。

①(人を表す)複数名詞化する 「…な人たち」

(ex) the blind 目の見えない人達 =blind people
the young 若者 =young people
the rich 金持ち =rich people

㊦このような形で使われる形容詞・分詞の具体例は以下の通り。

ablebodied[体の丈夫な], brave[勇敢な], dead[死んだ], deaf[耳の聞こえない], disabled[体の不自由な]
dumb[口のきけない], elderly[年輩の], guilty[有罪の], homeless[家を持たない], injured[負傷した]
innocent[無実の], living[生きている], old[年をとった], poor[貧乏な], rich[金持ちの], sick[病気の]
unemployed[失業した], wealthy[裕福な], wise[賢い], wounded[負傷した], young[若い]など。

㊦the accused[被告], the deceased[故人], the pursued[追跡されている人] はしばしば単数の人を表す。

㊦the British[英国人], the Dutch[オランダ人] など、「the+国籍を表す形容詞」についても同じように国民全体を表し、複数形として用いられる。

會成句的な(both) young and oldなどではtheは省略されることがある。

また、修飾語を伴うことも可。

(ex) the young at heart 心の若い人

②抽象名詞化する、あるいは集合名詞化する 「…なこと」

(ex) the beautiful 美 =beauty

the important 重要なこと =important things

結局、「the+形容詞(分詞)」には3つの意味があることになる。たとえば the good は、

1. 「善良な人々」 =good people (人を表す)複数名詞化
2. 「善」 =goodness 抽象名詞化
3. 「良いこと[物]」 =good things 集合名詞化

the old も同様に「老人たち」「古さ」「古い物」の3つの意味をもつことになる。文中でそのどれになるかは文脈判断となる。ただし、すべての「the+形容詞(分詞)」が3つの意味をもっているとは限らない。

「多くの専門家は、若者達に雇用の機会を増やす必要があると考えています」

問3 《ポイント》 動詞 turn の語法。 會選択肢が動詞だった場合、解法のヒントは空欄の後ろの「形」にあることが多い。

(1)turn C(形・分) で「Cになる[変わる]」という語法がある。

(2)「動詞」のturnを用いたイデオムと「名詞」の turn。

turn down A ①「Aを拒絶する」 =refuse A, reject A

②「A(ガス・明りなど)を弱くする、細くする」 ⇔ turn up A

「A(ラジオなど)の音を低く[小さく]する」

「A(音量)を下げる」

turn in A 「Aを提出する」 =submit A

turn on A 「A(スイッチなど)をつける」 ⇔turn off[out] A

turn out

①[turn out O(製品など)] 「Oを生産する」 =produce O

(ex) The factory turns out a large quantity of goods.

その工場は多量の品を生産する

會他動詞の turn out にはこれ以外に「O(ガス・灯など)を消す」という意味もある。

②[turn out (to be) C(形・名)] 「Cだと判明する、結果としてCになる」

(ex) The news turned out false. =prove (to be) C

そのニュースは誤りであることがあとでわかった

The day turned out (to be) fine. その日は結局お天気になった

turn over 「ひっくり返る[返す]」

turn to A for B 「B(物など)をA(人など)に頼る」 =look to A for B

turn up 「現れる、姿を表す」 =appear, show up

turn a deaf ear to A 「Aに耳を貸さない、無視する」

(名)①順番

(ex) It's my turn to drive. 今度は私が運転する番だ

②[in turnで]

(1) 「(2人が)交替で」 =by turns

「(3人以上が)順番に」

(ex) The teacher interviewed all the students in turn.

先生はすべての学生と順番に面談した

(2) 「今度は、同様に」 =as well

(ex) You dislike others and you are disliked by them in turn.

ひとを嫌うと、今度は自分が嫌われますよ

③ [take turns doing/to do~] 「交替で~する」

(ex) We took turns (at[in]) driving. 私たちは交替で運転した

④ 「回転」

⑤ 「方向転換、ターン」

(3) come は「good型の形容詞」をCにとって「Cになる」という語法はある。

(ex) His dream came true. 彼の夢はかなった

「私の近所の木の葉は、最近（葉の）色が黄色くなりました」

問4 《ポイント》 比較級を強調する副詞。

☞ 「センター文法・語法スーパーチェック」53ページ。

特に文法問題用に覚えておきたいのは「much」「far」「by far」「a lot」。
「はるかに、ずっと」などと訳す。

(ex) You look much better. (前より)ずっと元気そうですね

He is much younger than we (are). 彼は我々よりずっと若い

He is far taller than his father. 彼は自分のお父さんよりはるかに背が高い

This one is by far the better. (2つのうちで)こちらがはるかによい

=This one is better by far.

☞ by far は比較級の後ろに置かれることもある。
He is a lot wiser than he was. 彼は以前よりたいそう賢い

上記以外に代表的なものには even や still があります。これらは「更に、いっそう」などと訳す。

(ex) He is tall enough, but his brother is still taller.

彼はずいぶん背が高い。が彼の兄さんは更に高い

We had an earthquake last year, but the one this time was bigger still.

去年地震があったが、今回は更に大きかった

☞ still も比較級より後ろに置かれることがある。

It was hot yesterday, but it's even hotter today.

昨日は暑かったが、きょうはいっそう暑い

「私は、家で食事をする方がレストランで食べるよりもはるかに経済的であることが多いと思います」

問5 《ポイント》 過去分詞で始まる分詞構文。

☞ 「センター文法・語法スーパーチェック」44ページ。

(1) 分詞構文とは。

分詞構文とは、分詞一語が、接続詞と動詞の2つの役割を兼ねて、主節(あるいは動詞)を修飾するという用法。「S+V」や動詞を修飾するのだから、これは(分詞の)副詞的な用法[働き]だということになる。

分詞(～ing)=(接)+(動) 主 節

(1) 分詞が「接続詞」と「動詞」の役割を兼ねる

(2) 副詞的に主節(述語動詞)を修飾。具体的には以下のような意味で修飾する

①時「～の時」

③条件「もし～なら」

②理由「～なので」

④譲歩「～だけれど」「～だとしても」

☞主節とは、(従位)接続詞・関係詞・疑問詞等のついていない(裸の)S+Vのこと。

⑤同時状況「～しながら」

⑥動作の連続「～してそして…」

(2)基本的な分詞構文の作り方。

基本的な分詞構文の作り方の手順は以下の通りです。分詞一語が「接続詞」と「動詞」の(2つの)役割を兼ねるわけだから、

- ①(元の英文の)接続詞はいらなくなるのでこれを消す
- ②(元の英文の)動詞もいなくなる。動詞は現在分詞形に変える
- ③(元の英文の)主語も、(それが主節の主語と同一なら)いなくなるのでこれを消す

という手順で分詞構文が出来上がる。例をあげてみよう。

(ex) When she saw me, she ran away.
彼女は私を見ると逃げた

- ①まず接続詞(When)を消します。

~~When~~ she saw me,

- ②次に(主節の主語と同じなので)主語(she)も消します。

~~she~~ saw me,

- ③更に動詞(saw)を現在分詞形に変えます。

saw → seeing

- ④これで分詞構文の出来上がりです。

Seeing me, she ran away.

(3)前半と後半の節の動詞の時制が異なっている文を分詞構文にするには以下のように、副詞節と主節で動詞の時制が異なる英文を分詞構文にせよと言われたら、どうしたらいいでしょう。

(ex) As he caught cold, he is absent from school today.

接続詞のAs、主語のheを消すのはいいとして、動詞のcaughtの部分はどうするか…。単なるCatchingでは主節との時制のズレが表せない。

前半と後半(つまり副詞節と主節)で動詞の時制が異なっている(副詞節の方が、主節よりも時制が古い)場合、動詞を～ing形にするだけではダメ。完了形の分詞、つまり「having+p.p.～」にしなくてははいけない。

したがって上記の英文は以下のような分詞構文になる。

☞ Having caught cold, he is absent from school today.
風邪をひいたので、彼は今日学校を休んでいる

「having+p.p.～」は、主節の動詞より時制が1つ古い(昔である)ことを表す。

(4)間違えやすい分詞構文の解法のコツ（特に過去分詞で始まる分詞構文）。

(ex) Seen[×Seeing] from a distance, it looks like a human face.
遠くから見ると、それは人間の顔のように見える

上記の問題、なぜ seeing が不正解なのかわかるだろうか。見極めのポイントは「主節の主語との関係(受身か能動か)」について考えてみること。
上記の問題では、主節の主語は「それ(it)」。つまり「物」だ。「物」である「それ」は、人によって「見られる」側だ(「物」には目がついてないので「物が見る」ということはあり得ない)。つまり see との関係は「(「見られる」という)受身」。だから過去分詞の Seen が正解になる。

(ex) Seeing[×Seen] it from a distance, you may take it for a human.
遠くから見ると、君はそれを人間と間違えるかも知れない

上例の場合は、主節の主語は「あなた(you)」。つまり「人」だ。「人」である「あなた」は「見る」側だ。つまり see との関係は「(「見る」という)能動」。だから現在分詞の Seeing が正解になる。

(ex) The man stood with his arms folded[×folding].
その男は腕を組んで立っていた

上例は「with O C」構文だが、これも「O」と「C」の関係が能動か受身かで決める。「彼の腕(his arm)」は、腕の持ち主の「人」によって「組まれる」もの、つまり「受身」の関係になる。だから過去分詞の folded が正解になる

「その映画の主演俳優に選ばれ(た後・たので)、ラメシュはすぐスターになった」

問6 《ポイント》

📖「センター文法・語法スーパーチェック」56～59ページ。

(1)名詞節(S・O・C)になれない接続詞。

as if S+V～「まるで～かのように」
even if S+V～「たとえ～としても」
whenever S+V～「いつ～しても」「～するときはいつでも」

これらは副詞節しか導けない。

(2)whatever節は、名詞節、副詞節いずれにもなれる。

①名詞節を導く whatever節。

(ex) We will do whatever you tell us to do.
S V O

The animal eats whatever food it can find.
S V O

②副詞節を導く whatever節。

(ex) Whatever happens, I will not change my mind.
S V O

Whatever nonsense the newspapers print, some people believe.
S V

「あなたが入手する情報なら何でも、できるだけ早く私にお知らせください」

問8 《ポイント》使役動詞 get の語法。

☞「センター文法・語法スーパーチェック」15ページ。

(1) get+O+p.p. ~

① [受益の意味の使役・依頼] [物] を…させる、…してもらう

(ex) He got[had] his house built.

彼は家を建てた

He hasn't got[had] his hair cut (for) three months.

彼は3か月散髪していない

② [不利益を表す受身の意味・被害] [物] を…される

☞S(主語)に何らかの責任の含みがある場合。目的語が「(本人の)身体の一部」の場合が多い。

(ex) I got[had] my leg broken in the accident.

私はその事故で足の骨を折ってしまった

③ [完了・状態] …してしまう、…し終える = get+O+p.p

☞主としてアメリカ用法。get の場合、S(主語)が「私(自分)」になり、「(自分で)~してしまう」の意味になる。

(ex) I got[had] my homework done.

宿題をすっかりし終えた

(2) 使役動詞の have と get.

① have+O+ $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{do[原形]} \sim}{C} \\ \frac{\text{p.p.}}{C} \end{array} \right.$ 「Oに~させる[してもらう]」
 (注)p.p.=過去分詞のこと。
 「Oを~される[してもらう]」
 ※使役の have には「have+O+doing~」で「Oに(自由に)~させておく」という用法もある。
 have+O+p.p. の場合、「(自分が)Oを~してしまう」という意味になることもある。

② get+O+ $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{to do[原形]} \sim}{C} \\ \frac{\text{p.p.}}{C} \end{array} \right.$ 「Oに~させる[してもらう]」
 「Oを~される[してもらう]」
 ※get+O+p.p. の場合、「(自分が)Oを~してしまう」という意味になることもある。

《ポイント》

Cに何を入れるかは、OとCの意味関係で決まる。つまりOとCが能動(「OはCする」)の意味関係なら、Cには have であれば「原形(又は~ing)」、get であれば、「to不定詞」が入る。逆に、OとCの関係が受身(「OはCされる」)の意味関係になる場合は、have も get も 過去分詞をCに取る。

《Cの見極め方》

O : C=能動(「OはCする」) ☞ C= ①動詞がhaveなら「原形(又は~ing)」
 ②動詞がgetなら「to不定詞」。

O : C=受身(「OはCされる」) ☞ C=過去分詞

☞ただし意味関係を考える際、「英語は常に人間中心にその意味関係を考える」という点に注意せよ。

《演習》空欄中で、正しい形となるものを選び。

1. I had my house (paint/ painted/ to paint) green.
2. I had my son (carry/ to carry / carried) the baggage for me.
3. I had my son (kill/ killed/ to kill) in the war.
4. I got my husband (give/ to give/ given) up smoking.
5. I got the photo (take/ to take/ taken) by my friend.
6. I won't have you (saying/ say/ said/ to say) such things about my son.

【解答】 1.painted 2.carry 3.killed 4.to give 5.taken 6.saying

【解説】 1.角解言説1.「O」と「C」である「私の家」と「paint(ペンキで塗る)」の関係は受身(家は人によって塗られるもの)。

《訳》「私は家を緑色に塗ってもらった」

2.「O」と「C」である「私の息子」と「carry(運ぶ)」の関係は能動(息子が運ぶ)。

《訳》「私は息子に荷物を運ばせた」

3.「O」と「C」である「私の息子」と「kill(殺す)」の関係は受身(息子は殺された)。

《訳》「私は息子を戦争で亡くした」

4.「O」と「C」である「私の夫」と「やめる」の関係は能動(夫がたばこをやめる)。

《訳》「私は夫にたばこをやめさせた」

5.「O」と「C」である「写真」と「撮る」の関係は受身(写真は人によって撮られるもの)。

《訳》「私友人に写真を撮ってもらった」

6.「O」と「C」である「あなた」と「言う」の関係は能動(あなたが言う)だが、この場合のように「Oに～させておく(そのままにしておく)」という意味になる場合には「C」には「現在分詞(doing)」が入る。

《訳》「君なんかに息子のことをそんなふうには言わせてはおかないぞ」

④getも「C」に「現在分詞(doing)」をとることがあるが、違いは「to do[原形]～」の場合は、「努力して～させる」というニュアンスになる。get+O+doing～の場合、そのようなニュアンスはない。

(ex) I got the car starting. ☞「努力して～させる」というニュアンスはない。

私は車を発進させた

「彼はラッシュアワーの電車に乗ったときに、偶然ドアに傘をはさまれました」

問9 《ポイント》最上級の代用表現。

④「センター文法・語法スーパーチェック」54ページ。

S+V+ the ~est of[in]... 「Sは…のうちで最も～だ」という最上級の構文を比較級・原級比較を用いて書き換える場合、以下のような書き換えが可能。

①
$$\textcircled{S} + \textcircled{V} + \left\{ \begin{array}{l} \text{as[so]}\sim\text{as} \\ \sim\text{er than} \end{array} \right\} + \text{any}+(\text{other})+\text{単数名詞} .$$

《Points》

1.訳し方は「 \textcircled{S} は他のいかなる〇〇よりも[と同じく]～だ」。otherは文脈でわかる場合は省略されることがある。

2.any other+単数名詞は「all the other+複数名詞」で言い換えられる。

3.any other thing(「他の何物よりも」)は anything else で言い換えることができる。
any other person(「他の誰よりも」)は anybody[anyone] else で言い換えることができる。

②
$$\frac{\text{No}+(\text{other})+\text{単数名詞}}{\text{㉓}} + \text{㉔} + \left\{ \begin{array}{l} \text{as}[\text{so}] \sim \text{as} \\ \sim \text{er than} \end{array} \right\} + \text{A.}$$

《Points》

1.訳し方は「Aほど～なものはない」。

「No+(other)+単数名詞」は、Nobody[No one], Nothing になることもある。また、No 以外の否定語、たとえば Few, Little などが来ることもある。その場合の訳は「Aほど～なものはほとんどない」となる。なお、Few の後は複数名詞になる。

(ex) Few people know more about Royal family than him.
彼ほど皇室についてよく知っている人はほとんどいない

2.other は省略可能。

(ex) No (other) company in Japan is bigger than Toyota.

ただし、比較対象が同一の範疇[種類]でないもの場合は、other は絶対につけない。

× No other building in the world is higher than Mt. Fuji.

○ No building in the world is higher than Mt. Fuji.
この世界に富士山ほど高い建物は無い

上例の場合、「建物」と「山」との比較、つまり(比較対象である)両者の範疇[種類]が異なるので、other をつけると論理的におかしいのだ。

「このクラスでアビーほど親切な人はいません。彼女はいつも困っている人を助けます」

問10 《ポイント》ask の語法と大過去。

(1)ask の語法。

㊦「センター文法・語法スーパーチェック」7ページ。

①ask A(人) $\left\{ \begin{array}{l} \text{(about) B(質問等)} \\ \text{if[whether] S+V} \\ \text{疑問詞節(句)} \end{array} \right. \begin{array}{l} \text{「AにBを(について)尋ねる」} \\ \text{「Aに～かどうか尋ねる」} \\ \text{「Aに〇〇を尋ねる」} \end{array}$

(ex) I asked him the place of his birth. 私は彼に出身地を尋ねた
I asked her whether[if] she was happy. 私は彼女に幸せかどうか尋ねた
She asked him why he had not come. 彼女は彼になぜ来なかったのかと尋ねた
㊦「ask A(人) B(質問等)」の、AとBの語順がひっくり返ると「ask B(質問等) of A(人)」となる。
また「ask whether[if] S+V～:～かどうか尋ねる」と、ask直後の「人」を表す名詞が省かれることもある。

②ask A(人) for B(物) 「AにBを(くれと)求める」

(ex) He asked me for some money.
彼は私に金をくれと言った

③ask for A(物) 「Aを求める」

ask A(代金) for B(商品) 「BにAの代金を請求する[つける]」

(ex) He asked for money.
彼は金をくれと言った

What price[How much] do you ask for this painting?

この絵にいくら払えばよいのですか

④ask A(人) to do[願形]～「Aに～するよう求める、頼む、誘う」

=ask that A(人)+[should]+do[願形]～

(ex) I asked him to wait.

私は彼に待ってくださいと言った

=I asked that he (should) wait.

㊦「I asked her out for the evening. その晩外出しようとして彼女を誘った」といった形もあり得る。

⑤ask A(人) B(望みの物等) 「AにBを求める」

=ask B(望みの物等) of A(人)

(ex) You are asking too much of me.

それは私には無理な注文というものです

May I ask you a favor?

折り入ってお願いがあるのですが

=May I ask a favor of you?

They asked him \$4,000 for the car.

彼らは彼に車の代金として4000ドル要求した

I was asked my opinion about his plan.

私は彼の計画について意見を求められた

(2)大過去。

㊦「センター文法・語法スーパーチェック」21ページ。

過去完了(had+p.p.)には、過去のある一時点よりも更に昔の動作や出来事を表す場合もある。これを「大過去」と言う。

(ex) I lost the glasses I had bought the day before.

前の日に買ったメガネをなくしてしまった

上の例文で「メガネをなくした」こと自体が過去の事実で、「買った」のはそれよりも更に昔の事実(大過去)。したがって過去完了(had bought)で書かれているわけ。

「アンジェリーナは、私がこの前の土曜日に催し物を楽しんだかどうか尋ねました」

第2問

～第二問B・C(整序英作文問題) 解法のまとめ～

(1)近年は、問題文が会話形式になってきている。最頻出ジャンルは

- ①イディオム・構文
- ②動詞の語法
- ③語順・英文構成

(2)まず問題文と選択肢を眺めて、**使えそうなイディオム・(動詞などの)語法・構文はないか調べる。**

☞問題文中の、下線部との切れ目にあたる語句をチェックするのも忘れずに。

(3)もし見つければ、それを文の骨組みにして、他の選択肢をその骨組みの中に当てはめていく。

(4)使えそうなイディオム・構文などがなければ、「英文法力駆使型」だとみなして文法力を駆使してつなげられるものを結びつけていく。
骨組みとなる「S+V」、特に「V」の決定が解法への近道になることが多い。

(5)動詞の語法やイディオム・構文が最頻出だが、語順・英文構成に関連した問題も要注意。これに関してのルールもしっかりまとめておこう。

(6)会話形式の英作文の場合、そこまでの会話の流れも解答作りのヒントにする。

(7)解答が出来上がったら、最後にそれで意味が通じるか確認してみる。
このように意味を考えるのは最後の確認時である。まずは**「ルール」「形」でもって解く**という基本を、(文法・語法問題だけでなく)英作文でも忘れないこと。

B

問1 《ポイント》

- (1) 「…ただ、構文の中で特に目を光らせておいてほしいのは「SVOC」だ。「SVOC」構文は、センターの整序英作文では毎年といっていいほど出題されるんだ(前述したように第2問Aでも頻出)。だから**選択肢中に「SVOC」を作りうる動詞があったら、まずは「SVOCになるんじゃないかな」と疑ってかかること**

☞「センター英語9割GETの攻略法」より。

(2)

仮目的語[形式目的語]構文

目的語が長すぎるような場合に、本来目的語を置く位置に、仮の目的語[仮目的語、又は形式目的語]の it を置いて、本当の目的語[真目的語]を節の後半に持つてくるといふ、いわゆる形式目的語[仮目的語]構文というものがある。その3大代表選手が以下の3つ。

① 「consider[think] O(名) C(形・分・名):OはCだと思う[みなす]」

⇒ consider[think] it (形・分・名) $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]} \sim \\ \text{doing} \sim \\ \text{that節など} \end{array} \right.$ 「～するのはCだと思う[みなす]」

(ex) The President considered it rude to say such a thing in public.
大統領は、そんなことを人前で言うのは失礼だと思った

② 「make O(名) C(形・分・名):OをCにする」

⇒ make it (形・分・名) $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]} \sim \\ \text{doing} \sim \\ \text{that節など} \end{array} \right.$ 「～するのをCにする」
☞makeの場合、Cに入る分詞は、過去分詞のみ。

(ex) The new account system will make it easier to do our business.
新しい会計システムのおかげで業務がより容易になるだろう

③ 「find O(名) C(形・分・名):OはCだと思う[わかる]」

⇒ find it (形・分・名) $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]} \sim \\ \text{doing} \sim \\ \text{that節など} \end{array} \right.$ 「～するのをCだと思う[わかる]」

(ex) We found it very hard going back to the lodge in the storm.
その嵐の中をロッジに戻るのは大変な苦勞だった

更にこの形式目的語構文には慣用的なものもあり、それらは文法・作文問題で頻出だ。以下のものはしっかり覚えよう。

(1) see [to it] that S+V~ 「～するよう取り計らう、気をつける」

(ex) I'll see to it that there is no such a mistake again.
そんな間違いが二度と起こらないように気をつけます

(2) **take it for granted that S+V** ~ 「~するのを当然とみなす」

(ex) Ben took it for granted that his close friend would agree.
ベンが親友が同意するのは当たり前だと思った

(3) **make it a rule[habit] to do[原形]** ~ 「~するのを習慣にする」

(ex) I make it a rule to go for a walk before breakfast.
私は朝食前に散歩することになっている

(4) **have it that S+V** ~ 「~だと言う」

(ex) Rumor has it that she was an actress when young.
うわさでは彼女は若いころ女優だったそうだ

(5) **owe it to A that S+V** ~ 「~する[した]のはAのおかげだ」
owe it to A to do[原形] ~ 「Aに対して~する義務を負っている」

(ex) You owe it to your friends that you have been able to succeed in your business.
君が事業で成功できたのは友人たちのおかげです

We owe it to our children to make our society a better place.
我々は子供達に対して、この社会をよりよい所にする義務がある

Ⓜ これらは、目的語が長すぎるからというよりは、直接後ろに節等を目的語をとることができないので、仮の目的語 *it* をたてて、その後に本当の目的語を置いたというものが多い。

Ⓜ 「センター英語9割GETの攻略法」より。

(3)

⑥ **keep[leave]+O+C**

C=(1)名詞
(2)形容詞
(3)現在分詞
(4)過去分詞

「OをC(の状態)のままにしておく」

Ⓜ 「センター英語9割GETの攻略法」より。

ケイタ 「君の部屋には、物が本当にたくさんあるね」
シンディ 「そうよね、実際きちんと片づけておくのが難しいのよ」

【正解】 ③②④①⑥⑤

問2 《ポイント》注意すべき「SVO₁O₂」をとる他動詞。

罫「センター文法・語法スーパーチェック」14ページ。

「SVO₁O₂」をとる動詞は基本的に「O₁にO₂を与える」という意味になる。ただ例外的に「与える」という意味にならない(あるいは、-見そう見えない)動詞もある。以下がその例。

① cost A(人) B(犠牲・効)「AにBの犠牲[効]を強いる」

(ex) Carelessness cost him his life.
不注意のために、彼は命を失った

② deny A(人) B(要求されたもの)「AにBを与えない」

(ex) Mary denies her children nothing.
メアリーは子供たちに何でも与える

③ envy A(人) B(物)「AのBをうらやむ[ねたむ]」

(ex) I envy you your success.
あなたの成功がうらやましい

④ save A(人) B(時間・金・効)「AのBを節約する[省く]」

(ex) This new machine will save us a lot of time.
この新しい機械のおかげでかなり時間が節約できるだろう

⑤ spare A(人) B(時間など)「AのためにBをさく[とっておく]」

(ex) Could you spare me a few minutes?
少し時間をとってくれませんか

⑥ spare A(人) B(苦勞)「AにBをかけないように気を配る、AのBを免除する[省く]」

(ex) I will spare you trouble.
あなたにご迷惑はかけません

罫 spareには「spare A(人) B(時間) : AにBを割いてやる」という語法もある。

(ex) Can you spare me a few minute?
私に2、3分時間を割いてくれますか

テッド「ジョーンズ教授にこの論文を書き直すように言われたんだ」
ジャック「そうか、まあ数時間かかるかもしれないけど、きつともっと高い点が取れるよ」

【正解】④⑤②⑥①③

問3 《ポイント》 how come S+V~? で「どうして~?」。

これは、元々以下のような英文だった。

How did[does] it come about that S+V~?

それが(特に口語などで)省略が起きて how come S+V~? で「どうして」「なぜ」という驚きを表す。come の後ろが「S+V」の語順になるのがポイント。

Why+疑問文の語順? や What+疑問文の語順+for? で言い換えることができる。

(ex) How come you were absent from school yesterday?
なぜ昨日学校を休んだの
=Why were you absent from school yesterday?
=What were you absent from school yesterday for?

「What+疑問文の語順+for?」で「なぜ~?」「何のために~?」も頻出表現。

(ex) What is this used for?
これは何のために使われるのですか

それから、会話などでは”How come?(どうして)”と、単独で使われることもある。
これは why や what ~ for にしても同じ。

(ex) A: I won't be able to attend the party. パーティには出れないよ
B: How come? どうして
=Why?
=What for?

リタ「ダニエルと私はもう帰らないといけないの」

父「おや、どうしていつもより早めに帰るんだい? 夕食まではいられると思ってたのに」

【正解】③⑥①④②⑤

C

問1 《ポイント》

(1) realize は「~を認識する」「~を実現する」という意味。不定詞や動名詞を目的語に取ることは基本的にない。

(2) 📖「センター文法・語法スーパーチェック」30ページ。

remember { to do~ 「~するのを覚えておく、忘れずに~する(未来)」
doing~ 「~したことを覚えている(過去)」

(ex) Remember to write to me when you get there.
そこに着いたら忘れずにお便りを下さいね

I remember seeing the picture somewhere before.
その絵を以前どこかで見たことがある

(3) turn in A で「Aを提出する」。📖「センター文法・語法スーパーチェック」79ページ。

(4) 「他動詞＋代名詞＋副詞」の語順に注意。

Ⓜ 「センター文法・語法スーパーチェック」39ページ。

他動詞の目的語が「代名詞」だった場合、必ずその「代名詞」は、他動詞の直後に置かなければならない。

- (ex) ○ carry it out
× carry out it

目的語が「名詞」だった場合は、他動詞の直後に必ずしも置かなくてもいい。

- (ex) ○ carry out the plan
○ carry the plan out

(5) till[until] と by の使い分け。

Ⓜ 「センター文法・語法スーパーチェック」28ページ。

① till[until] 「～まで(は)」 [継続(を表す動詞と共に用いる)]

- (ex) I will wait till tomorrow.
明日まで(は)待ちます

② by 「～までに(は)」 [完了・期限(を表す動詞と共に用いる)]

- (ex) I will finish it by tomorrow.
明日までに(は)それを終えます

Ⓜ by と同じ意味でも、by the time の場合、接続詞なので、直後には「S+V」がくる。

- (ex) I shall have a house of my own by the time I'm fifty.
私が50歳になるまでには自分の家が持てるだろう

更に詳しい by[by the time] と until[till] の使い分け方については、YouTubeで「by と until の使い分け方」で検索すれば、そこで詳細に説明をしている。

社員「これだけの仕事は全部いっぺんにはできないな。どれを最初にやるべきだと思う？」
同僚「う～ん。月刊報告はとても大事なものだから、それを忘れずに5時までに提出しなくちゃいけないよ」

【正解】⑤

問2 《ポイント》

(1)仮定法過去。

罫「センター文法・語法スーパーチェック」28ページ。

If+S₁+(助)動詞の過去形~, S₂+助動詞の過去形+V[原形]…
 「もし(今)~なら」 「…だろうに」

罫 (主節、つまりifのついていないS+Vにくる)「助動詞の過去形」には、
 would, could, might, should があるが、shouldはまれ。
 be動詞は、例文のように主語の人称に関係なく「were」が用いられることが多
 いが、たとえば I[he/she] was として間違いではない。

罫 If節にくる助動詞の過去形には、「可能性」を表す could や「推量」を表す
 might など。その場合 If節内は could[might…]+V[原形]~ となる。

(ex) If I were you, I would not do such a thing.
 もし(今)僕が君なら、そんなことはしないだろうに

(2)「感情」「被害」を表す動詞の分詞形に注意せよ。

罫「センター文法・語法スーパーチェック」43ページ。

①「感情」を表す動詞。

surprise A(人等) 「Aを驚かす」 satisfy A(人等) 「Aを満足させる」 bore A(人等) 「Aを退屈させる」
 disappoint A(人等) 「Aを失望させる」 interest A(人等) 「Aに興味を抱かせる」 please A(人等) 「Aを喜ばせる」

②「被害」を表す動詞。

hurt A(人等) 「Aを傷つける(事故等で)」 wound A(人等) 「Aを傷つける(戦い等で)」
 injure A(人等) 「Aを傷つける(事故等で)」

これらの動詞を分詞形にする際、現在分詞にするか過去分詞にするかの見分け方は、主語
 を目印にするといふことが多い。つまり、「人(感情を有するもの。又は「表情」)」が主語の場合は過去分
 詞形にし、「物(ある感情を引き起こす原因となるもの)」が主語の場合は現在分詞形にするのだ。

(ex) It is disappointing that he failed in the exam.
 S(物) [現在分詞] 彼が試験に落ちたのがっかりだった

I was disappointed at the result. 僕はその結果にがっかりした
 S(人) [過去分詞]

後ろの名詞を修飾している場合は、それが「物」を表す名詞なら「感情・被害の分詞」は
 「現在分詞形」を、「人(又は「表情」)」を表す名詞なら「過去分詞形」にして入れたら
 いい。それから、「SVOC」の「C」に「感情・被害の分詞」を入れる場合、直前の
 「O」が「物」を表す名詞なら「現在分詞形」、「人(又は「表情」)」を表す名詞なら「過
 去分詞形」にして入れたらいい。

(ex) I saw his bored look. 私は彼の退屈した表情を見た
 S V [過去分詞] O(表情)

His exciting lecture is very popular and never makes students bored.
 [現在分詞] S(物) V C V O(人) C[過去分詞]
 彼のワクワクする講義はとても人気で、学生を決して退屈させない

テイラー「またクリケットを見ているのかい? どうして君がいつもクリケットの試合を見るのか僕にはわからないよ」
アデル「私はクリケットが大好きだし、これはとても大事な試合なの。もしルールがわかれば、クリケットはあなたにも本当に面白いでしょうにね」

【正解】②

問3 《ポイント》

(1) wonder+疑問詞節 で「～かしら(と思う)」。

(ex) I wonder why he is in such a hurry.
彼はなぜあんなに急いでいるんだろう

We wondered how the thief unlocked the door.
我々は泥棒がどうやってドアを開けたのだろうと思った

(2)間接疑問文の疑問詞節内の語順。

📖「センター文法・語法スーパーチェック」37～8ページ。

疑問詞節(又は whether[if]節)が文の一要素(S・O・C等)になる、いわゆる「間接疑問文」においては、疑問詞の後の語順が平叙文(つまり疑問文ではない普通の文)の語順に戻る点に注意しよう。たとえば

When will he arrive?

と、疑問詞から始まる疑問文では、疑問詞の後ろは「疑問文の語順」になるのに、そのwhen節が目的語となった以下の英文では、whenの後ろは平叙文の語順にしなければならない。

Do you know { × when will he arrive?
○ when he will arrive?
~~~~~  
[平叙文の語順]

(ex) I wonder why she was in such a hurry.  
彼女はなぜあんなに急いでいたんだろう

He asked when the ship will set sail.  
彼はいつ船が出帆するか尋ねた

(3) prevent O from doing~ で「Oが～するのを防ぐ[妨げる]」。

📖「センター文法・語法スーパーチェック」93ページ。

(ex) He tried to prevent the gossip from spreading.  
彼はうわさが広がらないように努めた

フリッツ「ナオキのうわさを聞いたと言っていた学生がいたよ」  
ソフィア「私もそれを聞いたけど、そのうわさはウソよ。どうしたらうわさが広まるのを止められるかしら」

【正解】⑦

### 第三問

#### A

#### ～第三問A(会話文問題) 解法のまとめ～

(1)近年は、問題文が長文化してきている。  
問題の難易度は易化傾向にある。

(2)会話の内容から

①会話のシチュエーション(状況・場面設定・話者同士の人間関係など)を予測する。

②(シチュエーションも加味し)、空欄部に至る会話の流れを確認・予測をする。  
会話(発言[質問・提案・意見…]とそれへの応答)の流れ(パターン)として、一般的に「応答」は、以下のいずれかに絞られる。

1.同意 2.拒絶[反対・辞退] 3.疑問[(逆)質問・(別)提案] 4.添加  
5.(根拠や予測される結果などの)説明 6.その他(鼓舞・ダメ出し・無視…)

☞シチュエーションを加味すれば、(予想される会話の)「流れ」は、より絞り込めてしまえることも多い。

(3)空欄の前後、特に後ろ(の文)に解法の最大のヒントがあることが多い。

(4)頻出の会話の決まり文句をおさえる。☞「頻出会話表現のまとめ」をDL。

(5)「省略」や「Yes No」などの会話のルールを覚える。

#### 問1

学生「今日、あとで私のスピーチの草稿を見ていただけるお時間はありますか？」

先生「いや、ちょっと今日は時間がないんだ。午後に約束がいくつかあってね」

学生「わかりました。では…明日の放課後、先生の研究室にお邪魔できますか？」

先生「いいよ。それなら君が来る前に目を通せるように、草稿をメールで送っておいてくれ」

- ① 約束をすっぽかすことができるとあなたは思いますか
- ② 明日の放課後、先生の研究室にお邪魔できますか
- ③ あなたと今日の約束をしましょうか
- ④ 検討すべき草稿を私に渡してもらえませんか

【正解】②

問2

ケン「今週末にメモリアルパークに行くっていうのはどうかな？」

イーサン「ここからの距離はどのくらい？」

ケン「まあ、急行電車で2時間くらいだよ」

イーサン「ああ、ちょっと遠いね。そこまで行くための金額はいくら？」

ケン「6千円くらいだけど、本当にそこは美しいと聞いているよ」

イーサン「わかってるけど、それは高すぎるなあ。どこか他に行くところを見つけよう」

- ① 私は外出する気にはなれない
- ② それは私達がそこに行く助けになる
- ③ それは高すぎるなあ
- ④ 私達はこの機会を逃すわけにはいかない

【正解】③

第3問

B

～センター第三問B(不適切文削除問題) 解法のまとめ～

- (1) 解法のヒントは「論理」「指示語」「文脈」の3つ。
- (2) 「文脈」が解答に至る最大のヒント。
- (3) 「文脈」について。
- ① 「文脈がうまく合っている[流れている]」というのは、「そのパラグラフ[段落]で語られる『テーマ』『主張』(特に『テーマ』)と関連性をもって(段落内の)各文章がつながっている[流れている]」ということ。
  - ② 「テーマ」が示される場所。
    1. パラグラフの冒頭部
    2. 逆接語で始まる文  
    ◆特に第2文が逆接語で始まっていた場合、その第2文が「テーマ」を示している可能性が高い。
  - ③ 問題文を読む場合、上記の部分にまず着目し、「文脈」を追う[の流れを読み取る]カギとなる「テーマ」をしっかりキャッチすることが大切。
- (4) 「論理」について。
- ① 文章同士は論理的(「順接」「逆接」「因果」のいずれか)にしか結びつかない。
  - ② 頻出の論理マーカーとそれが導く論理をおさえる。  
⇒ 「頻出論理マーカーのまとめ」をHPからDLして知識を深めよう。
- (5) 「指示語」は以下に注意する。
- ① 「冠詞」の変化。
  - ② 「名詞(→代名詞)」の変化。
  - ③ 「副詞」の変化。
  - ④ 直前の内容の具体例[理由]であることを示す語句がある。
    1. 固有名詞
    2. 数詞
    3. (そこまでの流れとは一見無関係に見える)突然関係ない話  
    ※ただし、突然関係ない話が生まれれば、それは正解(不適切文)の可能性が高いとは言える。突然関係ない話が正解にならない(適切文である)とすれば、それは具体例としてそこに置かれているとみる、ということ。

## 問1

「…「いくつかの」「いろいろな」という形容詞がついた名詞は、直後で具体的に言い換えられることが多いんだ」

※「いくつかの」にあたる形容詞は、具体的には several, some など。類語としては「2、3の」という意味の a few など。「いろいろな」にあたる形容詞は different, various, varying, varied, a variety of など。

◎「センター英語9割GETの攻略法」より。

### 《語句》

|                            |                                  |
|----------------------------|----------------------------------|
| proper:適切な                 | material:素材                      |
| reduce:～を減らす               | breathable:通気性の良い                |
| in order to do[彫]～:～するために  | brand-name:ブランド品の                |
| make sure S+V～:確実に～するようにする | pay attention to A:Aに注意を払う       |
| be made of A:Aできている        | not only A but also B:AだけでなくBもまた |

### 【全訳】

「適切な靴を履くことで、足に関わる問題を減らすことができます。以下は正しい靴を選ぶために考えるべき、いくつかの重要なポイントです。①インソール、つまり靴の内底は、歩行時に足にかかる衝撃を吸収する素材で作られていることを確認しましょう。②靴の上部は、革や布のような通気性の良い素材で作られているべきです。③ブランド品の革靴には、流行のデザインであるために有名なものがあります。④試しに履いてみるときは、靴の長さだけでなく、深さや幅にも注意しましょう。正しい靴を履くことによって、問題が減って歩くことを楽しむことができるようになります」

【正解】③

## 問2

### 《語句》

|                  |                                    |
|------------------|------------------------------------|
| transport:～を輸送する | estimate:～を見積もる、算定する               |
| by air:飛行機で      | destination:目的地                    |
| expensive:費用がかかる | compare A with B:AをBと比較する          |
| suitable:適している   | from door to door:一軒一軒に            |
| delivery:配送      | take A into consideration:Aを考慮に入れる |
| quantity:量       | depending on A:Aに応じて               |

### 【全訳】

「日本には物資を運ぶ方法がいくつかあります。各方法にはそれぞれに長所と短所があります。①空輸は、高価なこともあります。迅速な配送を要する物資の輸送には適しています。②バスは多くの乗客を乗せることができ、日常生活に便利です。③一方船舶は、安い費用で大量のものを運ぶことができますが目的地に着くまでに時間が多くかかります。列車は駅にしか停車できませんが、その到着時間を容易に算定することができます。④トラックは、列車に比べて多くの物資を運べませんが、一軒一軒に物を運ぶには有用です。各輸送方法のこのような長所と短所は、必要に応じて最善の方法を選べるよう考慮されるべきです」

【正解】②

### 問3

#### 《語句》

originally:元々

experimental:実験的な

support:～を裏付ける

as ~ as S can:できる限り～

write down A:Aを書き留める

site:場所

recall A:Aを思い出す

It turned out that S+V～:～だと判明する

thus:こうして

#### 【全訳】

「もし以前覚えたことを忘れていたら、初めにそれを覚えたところに戻りなさい。実験的な研究がこの考え方を裏付けています。ダイバーの2つのグループが海に潜った例があります。①水中で一連の単語を聞いた後で、彼らは陸に戻って思い出せる限りの単語を書き留めました。②1日経ってから、1つのグループは陸に留まり、もう1つのグループは海に戻りました。③研究者たちは、その単語のリストを慎重に選んで、ダイバーたちは潜水する場所を選びました。④各グループは前日に覚えた単語を思い出して書き出すことを求められました。その結果、海に戻ったダイバーたちは陸に残ったダイバーたちよりも単語をよく思い出しました。したがって、人の記憶能力は、覚えることと思い出すことが同じ環境で行われた方が優れているように思われます」

#### 【正解】③

第3問

C

～第三問C(意見要約問題) 解法のまとめ～

- (1)まず日本語の問題説明部分から「テーマ」を確認する。
- (2)(第一発言者の発言の前の)冒頭の数行は、読まなくていいことがほとんど。  
◎つまり「テーマ」が確認できたら、後は発言者の発言に集中すればいい。
- (3)次に発言の、まずここを読む。  
◎近年は、司会者が複数の発言者の意見を(一つに)要約するタイプの設問がある。
- ①**第一文[冒頭文]**  
②**最終文**  
◎第一文[冒頭文]、最終文が(指示語などが使われ)内容を十分把握できない場合は、その前後を読むのはかまわない。
- ③**逆接語**で始まる(もしくは逆接語が挿入されている)英文  
④**「私は思う」系のフレーズ**を含む英文  
⑤**強制力の強い助動詞(must, have to, shouldなど)**を含む文
- (4)上記の箇所を読んで、発言者の主張が読み取れたら、その時点で選択肢を読んで正解を出す。
- (5)上記を読んでも発言者の主張が読み取れない時は、以下のフレーズを含む文が発言中にないか見てみる。  
①**主観的な判断(「良い」「悪い」など)を表す形容詞**を含む英文  
②**For example[instance](例えば)、For S+V～(というのは～だからだ)といった具体例や理由[論拠]を示す語句の直前**  
③**「～のように見える[思われる]」系のフレーズ**を含む英文
- (6)(三つの)発言のうち、最初の二つが「賛成」なら、三つ目は「反対」、逆に最初の二つが「反対」なら、三つ目は「賛成」の主張をするはず。  
◎あるいは「中立」になるはず。
- (7)正解の見つけ方は、(迷ったら)**「消去法」がベスト**。  
◎他のすべての設問においても、「消去法」的選択が速解に通じることが多い。

《語句》

resident:住民  
complain about A:Aについて不満を言う  
back and forth:行ったり来たり、あちこちに  
improve A:Aを改善する  
travel to A:Aに移動する、進む  
benefit from A:Aから利益を得る  
housing complex:住宅団地  
complete A:Aを完成させる  
be pleased with A:Aを喜ぶ  
fellow merchant:商売仲間  
benefit:利益

exit:出口  
have access to A:Aを利用する  
profit:利益、売り上げ  
open a business:事業を立ち上げる  
encourage A(人) to do[彫]~:  
Aが~するのを促す  
completely:完全に  
in the long run:長い目で見て、結局  
be hurt:傷つく、被害を被る  
preserve A:Aを保護する

【全訳】

- アリス：この町を発展させる方法を話し合うため、市長は私にこの会議の進行を託されました。トム、あなたから口火をきってくれませんか？
- トム：わかりました。もしこの町に新しい工場が建設されたら、もっと多くの人たちがここに移って来るでしょう。客の数が増えることになるわけですから、これは地元の店やレストランの助けになります。また、ここの住民で隣の町で働いている人の中には、この町で仕事を見つけられる人も出てくるでしょう。通勤で運転する往復時間が長いことをこぼしてきた人も大勢います。自宅にもっと近いところで働ければ、一緒に過ごす時間が増えて、彼らの家庭生活が良くなることでしょう。
- アリス：トム、あなたがおっしゃるのは、この町の人々は当地の新しい職場から利益を受けられるだろうということですね。
- トム：そう、その通りです。
- キャロル：ええと、私はショッピングモールを作った方が良いと思います。それは客にも、店の経営者にも良いことでしょう。例の新しい住宅団地が町の北東部に完成すれば、そこに住む人たちは、近くで買い物ができるモールを歓迎するでしょう。私の商売仲間の多くは新しい土地に移転できることを望んでいました。そのようなモールは、より多くの人々が彼らの店を訪れるでしょうから、店の経営者の利益になるでしょう。
- リック：賛成です、モールは、町の他の地区の人々が1箇所で買い物をすべてできるわけですから、彼らにも役立ちます。皆さんの時間を省いてくれ、家族は生活をもっと楽しむことになるでしょう。それに、幹線道路の出口も同じエリアにあります。ですから、この町の人々がそこに建設されたモールで買い物をするだけでなく、他の町の人々もそこを利用しやすくなるでしょう。それによって、ここの地域産業の利益は上がるでしょう。
- キャロル：その通りです。その結果、もっとお客様がこの町に来てくれるだけでなく、この町の家庭生活もずっと良くなるでしょう。
- アリス：それではお二人ともモールは、この町の経済と利便性を向上させる助けになるだろうと思われているのですね。
- レスリー：私は、モールを作ったり企業を立ち上げることだけが、ここの経済が伸びるのに役立つ唯一の方法だとは思いません。私たちは、既にこの町を有名にしている自然の美しさを利用する方策を見つけるべきです。そのおかげでこの町は、家族が住みよい場所になっているのですから。
- エレン：私もそう思います。私たちは、ここに住む家族や訪問者たちが享受している物事を変えることなく発展するように努力すべきです。この町の美しい風景をもっと創造的なやり方で利用すれば、人々がここに来て住むのを促すでしょう。そうなれば

この町にもっとお金が入ってくることでしょ。

レスリー：全く同感です。長い目で見れば、自然環境を保全しないと、この町は痛手を被るでしょう。

アリス：それではレスリーとエレンは、この町の地勢を維持する重要性について述べているのですね。さてここまでの討論から、皆さんが考えていらっしゃるの、この町を発展させる際に、私たちは住民の家庭生活を考慮すべきだということだと思われま。他に考慮すべき点があるかどうか確認してみましょう。

32

- ① この町の住民には、他の町に仕事に行くことを好む人が多い
- ② 新しいビジネスは、販売を増やすためにもっと貢献すべきである
- ③ この町の人々は、当地の職場から利益を受けられるだろう
- ④ 隣の町で働くことが、人々の生活をもっと良くするだろう

33

- ① 幹線道路を修復する金銭をこの町にもたらず
- ② 繁華街と北東部を発展させる
- ③ 多くの論争や議論を引き起こす
- ④ この町の経済と利便性を向上させる

34

- ① 大きなショッピングセンターを建設する
- ② 住民の家庭生活を考慮する
- ③ 被雇用者の数を増やす
- ④ 自然環境のことを考える

【正解】問1③ 問2④ 問3②

## 第四問

A

### ～第四問A(図表・グラフ型長文問題) 解法のまとめ～

- (1)まず本文[問題文]を読む前に設問、選択肢に目を通す。  
設問、選択肢に目を通す際、キーワード(と思われる語句)に下線を引いておくといい。下線を引いたキーワードが本文[問題文]中に現れだしたら、そこが設問の対応箇所である可能性が高い。キーワードとは、**主要品詞、つまり「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」**など。  
① 文中でも「**名詞**」は**最大のキーワード**。  
(設問はしっかり読むべきだが)選択肢の方は
- ①短いものは全部読む。
  - ②長いものはキーワードに下線を引くにとどめる。
- (2)本文中で行われた調査[研究]、実験の「目的」や「手法」を問うような設問があれば、それに対する対応箇所は、**本文[問題文]の前半**(グラフや図表が現れる前)にあると見ていい。
- (3)設問から、グラフ・図表の対応箇所が分かる場合には、本文を読む前にグラフ・図表中の設問に対応している箇所を確認しておく(分からなくても一応**グラフ・図表は事前にチェックしておく方がいい**)。  
① グラフ・図表をチェックする際には、まず「タイトル」「横軸」「縦軸」「単位」を確認すること。
- (4)図表・グラフが未完成になっていて、その未完成部分が何を指しているかを問う設問の場合、本文中における(未完成部分を完成させる)ヒントは、**中盤(からそれ以降)にある**。
- (5)内容一致問題の場合は
- ①選択肢は、時間がなかったら読まない(読んだとしてもキーワードに下線を引くくらいにとどめる)。
  - ②消去法で正解をあぶり出していく。
  - ③(これは内容一致問題以外でも言えることだが)、**「最も」「唯一の」「必ず」「絶対」「決して～ない」などの語(要する程度があまりに著しい語)**が使われている**選択肢は×であることが多い**。
- (ex) absolutely「絶対に」      all/every「すべての～」      invariably「いつも」 any「いかなる」  
only「唯一の～」      few/little「ほとんど～ない」      without exception「例外なく」  
never「決して～ない」      without fail「間違いなく」      (almost) always「(ほとんど)いつも」  
necessarily/certainly/definitely「必ず」
- (6)次に本文[問題文]の各パラグラフ冒頭文に(長いパラグラフの場合は最終文も)目を通し、全体の「テーマ」「流れ[展開]」を確認する。  
① ② ただし「最終パラグラフの後に続く可能性が最も高い話題はどれですか」という設問がある場合は、(いくら短くても)最終パラグラフの最終文を読んでおく。最終パラグラフとの関係は、以下のいずれかの可能性が高い。

- ①イコール関係
- ②逆[対比]関係
- ③因果関係

☞ 具体的には「抽象⇒具体例」「言い換え」「並列」など。①の関係となることの方が多い。

- (7)それが終わったら、その時点の情報で解ける設問、消せる選択肢がないか見てみる。
- (8)(部分読みでは)解ききれなかった設問については、キーワードを再度確認し、本文[問題文]中に対応箇所を探し出していく。  
この時点では、選択肢も含め、キーワードのチェックする。
- (9)その結果、ある段落を全読みしなければならなくなったときは
  - ①基本は「読みながら解きながら」。
  - ②分割読みをして、分割したところまで読み進んだ時点で設問を見てみる。
- (10)本文[問題文]を全部読み終えていなくても、正解を出し終えてしまったら、もうそれ以上問題文を読み続ける必要はない。

### 《語句》

physical: 身体の  
 benefit A: Aに利益を与える  
 promote A: Aを促進する  
 schoolyard: 校庭  
 adolescent: 青(少)年  
 conduct A: Aを行う  
 passive: 不活発な  
 classify A: Aを分類する  
 define A: Aを定義する  
 primary: 基本的な、主要な  
 marked line: 標識線  
 refer to A: Aのことを指して言う  
 various: 様々な  
 surface: 表面  
 artificial: 人工的な  
 rubber: ゴム、ラバー  
 represent A: Aを表す  
 equipment: 設備  
 swing: ブランコ  
 slide: すべり台  
 identify A: Aを区別する、識別する

numerous: 数多くの  
 device: 装置  
 instrument: 器具  
 measure A: Aを測定する  
 degree: 程度  
 display A: Aを表す  
 furthermore: おまけに  
 reveal A: Aを明らかにする  
 except for A: Aを除いて  
 according to A: ①Aによれば  
                   ②Aに従って、応じて  
 regulation: 規則  
 investigate A: Aを調査する  
 potential: 潜在能力  
 feature: 特徴  
 beneficial: 有益な  
 observe A: Aを観察する  
 affect A: Aに影響を与える  
 take part in A: Aに参加する  
 relationship: 関係

## 【全訳】

スポーツや運動といった子供時代の身体活動は、大人になってからの健康に大いに益となることがあります。したがって、健康のために子供時代の身体活動を促進することは重要です。校庭は、子供や青少年が身体活動に参加する気持ちになる場所の1つです。したがって、どのように校庭が生徒たちに利用されているかを知ること、彼らの身体活動を促進するのに役立つ考えを得られる可能性があります。

ある研究がデンマークの4つの学校で実施されましたが、その目的は、どの程度異なるタイプの校庭エリアが利用されているか、またそれらのエリアで学生たちが活発であるか不活発であるかを調査することでした。研究では、校庭エリアはその基本的特徴によって分類され、定義されました。「グラス」は、運動場、または天然の青芝エリアであり、サッカーによく使われますが、標識線やゴールはありません。「マルチコート」は、テニスや他の球技用に設計され、人工芝やゴムのような様々な表面で、フェンスで囲まれたエリアを指していました。「ナチュラル」は、たとえば灌木（かんぼく）や木立、自然石のあるエリアです。「プレイグラウンド」は、砂のような安全な表面に、ブランコや滑り台のような遊具のあるエリアでした。「ソリッド・サーフェス」は、コンクリートのような最も硬い表面のエリアを表していました。このエリアは、平らに開けた空間で、多くの印がゲーム用にペンキで塗られ、様々な所にベンチが置かれていることが多いとわかりました。

GPS装置や他の機器を使って、研究者たちは、生徒たちが異なる校庭エリアで過ごす時間の長さとその身体活動の程度を測定しました。図1は、生徒全員の各エリアにおける1日の使用時間の平均と、子供（12歳以下）と青少年（13歳以上）に分けたその平均を表しています。「ソリッド・サーフェス」は、生徒全員が最も時間を使ったエリアであることが明らかで、次に「マルチコート」、そして「グラス」が続いています。「ナチュラル」と「プレイグラウンド」は、生徒全員の平均が似通っていますが、「プレイグラウンド」の生徒全員の平均は、2分をわずかに超えていました。

（図1は省略）

さらに研究では、子供と青少年が校庭で過ごす平均時間の違いを明らかにしました。青少年と比べて、子供は「ナチュラル」以外のすべての校庭エリアで、より多くの時間を過ごしていました。子供の方がより多くの時間を過ごすことは、4校すべての校則によって、子供は昼休みに校庭を離れることは許されませんが、青少年は好きなときにそれが許されるという事実によって説明されるかもしれません。

身体活動の程度に注目したとき、研究者たちは校庭エリア間の違いを発見しました。生徒たちは「グラス」と「プレイグラウンド」において最も活発でした。一方、「ソリッド・サーフェス」では全く不活発で、青少年はそこでの時間のほんの7%、体を活発に動かすだけでした。

この研究結果は、校庭の様々な環境と特徴の潜在能力を調査することが大切だということを示しています。生徒の健康を増進するためには、子供や青少年がする様々なゲームが身体活動に参加するのに使われる時間に、どう影響するかを観察することも有益です。そこで今度はこれらの関係に注目してみましょう。

問1 「本文によれば、「マルチコート」と「ソリッド・サーフェス」の違いは何か」

- ① 「マルチコート」と違って、「ソリッド・サーフェス」は年下の生徒が遊ぶ人工芝を含む
- ② 「マルチコート」と違って、「ソリッド・サーフェス」は生徒のゲーム用につけられた境界線を含まない
- ③ 「ソリッドサーフェス」と違って、「マルチコート」は様々な素材で作られた比較的柔らかい表面を持つ
- ④ 「ソリッド・サーフェス」と違って、「マルチコート」は何にも囲まれておらず、そのため利用しやすくなっている

問2「図表1において、(A),(B),(C),(D)は次のどれを指すか」

- ① (A) グラス (B) マルチコート (C) ナチュラル (D) プレイグラウンド
- ② (A) グラス (B) マルチコート (C) プレイグラウンド (D) ナチュラル
- ③ (A) マルチコート (B) グラス (C) ナチュラル (D) プレイグラウンド
- ④ (A) マルチコート (B) グラス (C) プレイグラウンド (D) ナチュラル

問3「この文章の主たる目的は…ことである」

- ① 子供時代に学校で体を活発に動かすことの利点を議論する
- ② 体を活発に動かす青少年の数を増やすためにアドバイスする
- ③ 芝生のエリアで遊ぶことを生徒に促している学校を紹介する
- ④ 校庭のタイプがそこにおける生徒の行動に影響を及ぼすことを示す

問4「最終段落の後に続く可能性が最も高い話題はどれか」

- ① 異なる活動のための様々な学校環境を研究する利点
- ② ゲームの種類と活動的な時間の長さの関係
- ③ 校庭の環境が青少年の身体活動に及ぼす影響
- ④ 校庭の表面が身体活動を行うのに使われる時間にどう影響するか

【正解】問1③ 問2① 問3④ 問4②

## 第四問

### B

#### ～第四問B(広告文型問題) 解法のまとめ～

- (1)まず3つの設問とその選択肢に目を通す。この手順はAと同じ。ただし
  - ①何が問われているのか
  - ②答えを出すのに必要な情報はなんなのかを頭に整理する。選択肢の内容が複雑な場合は、要旨を簡単にメモ書きしておく。
- (2)必ずしも問1から順に解いていく必要はない。簡単な設問から答えを出していけばいい。
- (3)内容一致問題などは、(第四問の)Aと異なり、
  - ①全ての選択肢のキーワードをチェックし、下線を引く。
  - ②選択肢の内容が複雑な場合、余白にメモ書きをする。などして、(問題文中に)対応箇所を探すための情報を整理する。  
愈要するに「広告文」タイプの問題は、解くのが”めんどくさい”。だからこそ、簡単に答えを出せる設問から解くのがいい。
- (4)問題文[広告文]を読む際には、まず最初に広告文の「見出し」を確認しておく。設問との対応箇所を素早く見つけ出すヒントがえられることが多い。それから、(問題文の)欄外部分に何らかの情報があれば、それも最初にチェックしておく。
- (5)設問の対応箇所を問題文[広告文]中に見つけたら、選択肢と対照させて正解を出していく。

## 【全訳】

### 「ビデオクリップ・コンテスト：エントリー求む」

若手プロデューサー国際協会（IAYP）は、毎年恒例のビデオクリップ・コンテストを本年もまた開催致します。本コンテストは、皆様の作品を幅広い視聴者と共有するすばらしい手段です。25歳以下の方なら、どなたでも参加できます。IAYPは、次の4分野への出展をご案内しています。

|     | テーマ            | 最長時間 |
|-----|----------------|------|
| 部門A | チームスポーツに関するテーマ | 3分   |
| 部門B | 友情に関するテーマ      | 5分   |
| 部門C | 実話に基づく社会問題     | 5分   |
| 部門D | 劇的な結末のミステリー    | 7分   |

締め切りは2017年10月31日午後11時59分（日本標準時）。各分野の最優秀作品3作品が、著名なビデオ制作者の委員会によって選ばれ、12月にこのウェブサイトに掲載されます。総合優勝者1名は、次回のオーストラリア、シドニーにおけるIAYP大会への招待券が贈与されます。ですから、この機会をお見逃しなく！  
ビデオカメラを取り出して撮影を始めましょう！

次の手順に従ってください：

- ▶ ビデオを撮影し、コンピューターでお選びの部門に適切な長さに編集します。
- ▶ [こちら](#)をクリックして、あなたの詳細を入力し、ビデオクリップをアップロードします。

規則及び条件：

- ▶ 各個人またはグループにつき部門は1つだけ選択できます。
- ▶ 締め切り前に送られたクリップのみ受け付けます。
- ▶ クリップはオリジナルで、かつコンテスト類に初めて出展されるものでないといけません。

問1 「IAYPビデオクリップ・コンテストの目的は…を提供することである」

- ① 同年齢の新しい友だちと出会う場所
- ② ビデオクリップを制作するためのオーストラリアへの航空券
- ③ ビデオクリップをコンピューターで制作するための指導
- ④ 若い人々が自分の作品を展示する機会

問2 「ある高校の野球チームのメンバーたちが海外の姉妹校の選手たちとの絆に関する4分のビデオクリップを出展予定である。そのビデオクリップは次のどの部門に出展すべきか」

- ① 部門A
- ② 部門B
- ③ 部門C
- ④ 部門D

問3 「このコンテストの出展要件に合うものは次のどれか」

- ① 若い日本人探偵を主演とする9分のミステリードラマ
- ② ラグビーの試合の練習をする学生たちを描いた6分のビデオクリップ
- ③ 地域の映画祭で3等賞を取った3分のビデオクリップ
- ④ 2017年10月30日にこのウェブサイトアップロードされた3分のビデオクリップ

【正解】 問1④ 問2② 問3④

## 第5問

### ～第五問(物語文型長文問題) 解法のまとめ～

- (1)第5問は、**設問の順序とストーリー展開がほぼ一致している**。  
⚠ただし、物語の展開によっては、冒頭の設問の対応箇所が本文後半[末尾]に現れる可能性も、ないことはない。
- (2)第5問は、「全読み」タイプ、つまり基本的に全文を読まなければならないタイプの問題である。
- (3)まず設問に目を通し、キーワードをチェックする。
- (4)次に本文を読んでいく。基本は「**読みながら解きながら**」。
- (5)**一つの設問を解いたら、次の設問をチラ見してから本文[問題文]に戻る**ようにするといい。
- (6)「**4分割方式**」で全読みする。  
本文を4分割し、本文の4分の1まで読んだところで、(一旦読みを止め)解ける設問、消せる選択肢がないかチェックをする。
- (7)物語系独特の言い換えに注意する。
  - ①**事実・行動を心情で言い換える(又はその逆)**  
(ex)「彼の手紙を読もうともしなかった」 = 「彼が大嫌いだった」
  - ②**原因を結果で言い換える(又はその逆)**  
(ex)「その国は大国の庇護の下に入った」 = 「その国の平和は保たれた」
  - ③**ある事実・行動を別の[裏返した]事実・行動で言い換える**  
(ex)「よく欠席していた」 = 「あまり出席しなかった」
- (8)特に物語系の場合、「**5W1H**」を意識して読むことが大切(必要ならメモに取りながら読み進める)。そのポイントは以下の通り。  
⚠「5W1H」…「誰(who)」 「どこで(where)」 「いつ(when)」  
「何を(what)」 「なぜ(why)」 「どのように(how)」
  - ①登場人物同士の間関係も整理してみる(関係図をメモ書きするのもいい)。
  - ②セリフなども、それが誰のセリフなのか毎度確認する。
  - ③he, she, they, it といった代名詞が指すものは誰[何]なのかも確認しながら読み進める。
  - ④登場人物のセリフ、行動などから、その性格、思考、心理を読み取る。
  - ⑤ストーリーの語り手(Narrator)の、どんな視点からストーリーが語られているのかを読み取る。
  - ⑥会話が多い場合には、繰り返しになる部分が省略されてしまっていることが多い。文法的に不完全な個所に出会ったら、省略の可能性を考慮して、もし省かれているものがあるならそれを補ってみる。
- (9)2007年以前の第六問が同傾向なので、それで練習を積むといい。ただし、設問Bはやらなくていい(設問Aだけでいい)。

## 《語句》

yawn:あくび  
than usual:いつもより  
notice A:Aに気付く  
lick A:Aをなめる  
tongue:舌  
fur:毛皮  
except that S+V~::~~を除いて  
creature:生き物  
rest:残り  
tail:尻尾  
explore A:Aを詳しく調べる  
stair:階段  
be absorbed in A:Aに熱中している  
response to A:Aに応える

curved:曲がった  
uncomfortable:居心地が悪い、不快な  
it appears that S+V~::~~のように見える  
taste:味  
vague:曖昧な  
serve A:A(食事など)を出す  
mindlessly:不注意に  
briefly:少しの間  
in an instant:すぐに  
deny A:Aを否定する  
be awake:目が覚める  
habit:習慣  
pause:ちょっと(立ち)止まる、ためらう

## 【全訳】

ア——！

大きなあくびをしながら、私は目を覚ましました。何と新鮮な朝なのだろう！私の感覚は研ぎ澄まされていました。いつもよりずっと鋭敏だと思った私は、かつてないほどはっきりと鳥の歌声を聞くことができました。私はコーヒーの香りが、下の階からのぼってくるのに気づきました。私は目の前で両腕を伸ばして背中を上げました。とても気持ちがよかったです。私はまっすぐ座り直して、手をなめ、それから手で顔を拭き始めました…おやっ？…何か変だ。なんで私は舌で手をなめたりしているんだ？なんで私の体は毛皮で覆われているんだ？私は何かしゃべろうとしたけれど、私の口から出た音は…「ニャ〜」。

私がいるのは確かに自分の寝室でした。私が座っているのは確かに自分のベッドでした。すべてがいつもと同じでした…自分が違う生き物に変わってしまったらしいことを除けば。私はあまりに驚いたので、動くことができませんでした。私は何もできませんでした。私は考えをめぐらしました——人生の残りを動物として過ごさなければならぬのだろうか？私は恐ろしくなり始めました…しかし、すぐにそんな感情は消えてしまいました。というわけで、しっぽを振り上げて、私は早速周囲を探検し始めました。猫の心はそんな風に変わりやすいのだそうです。

下の階へ降りるにつれて、コーヒーの香りがますます強くなり、何が朝食に出されているのかわかりました。たぶん猫の感覚は、人間の感覚よりも鋭いのでしょう。ダイニングルームに入ると、目にしたもののために、私の心臓はほとんど止まりかけました。それは『私』でした！人間の『私』が食卓の前に座っていたのです！私は『私自身』から目をそらすことができませんでした。

人間の『私』は、スマホに夢中になっていました。たぶん、友人のメッセージに返信しているのか、オンラインゲームをしているのでしょう。『私』の頭を下のスマホの方に傾けながら、『私』は肩を丸め、背中を曲げて座っていました。『私』は、とても居心地悪そうに見えました。

『私』は時々トーストを少しかじりましたが、『私』は『私』の口の中の味にまったく気づいていないように見えました。実際、私の記憶の中のトーストの味は曖昧でした。私は、最近朝食に他に何が出されたか思い出せませんでした。人間の『私』は、スマホをいじりながら、まったく心ここにあらずという風で、皿の上に乗っているものなら何でも『私』の口の中に詰め込んでいました。『私』はテキストメッセージやゲームにとても集中していたので、『私』は『私』の周囲で起きていることに、ほとんど興味を示しませんでした。実は、『私』の顔に

は何の表情もなかったのです。

「ユージ、近頃あなたは勉強しないわネェ。期末試験の準備はできてるの？ あなたのことがちょっと心配だわ」とママが言った。

「うーん」と『私』が言った。『私』の顔に、不満げな様子がほんの少しの間浮かびましたが、それはすぐに消えました。『私』の顔は、再び前と同じように表情がなくなりました。

「こいつは嫌なやつだ」と私は思いました。しかし、こいつは私なのです。私はそれを否定することができませんでした。初めて私は、自分が他人に本当はどのように見えるのかに気づきました。

すると、『私』が食卓を離れようとしたとき、我々の目が合いました。「わっ！ママ、見て！ダイニングルームに猫がいる！」

なぜだかわかりませんでした。私は走っていました。私は逃げなければならないと感じていました。階段を駆け上がると、私の部屋の窓が開いているのがわかりました。私はジャンプしました！私は奇妙な感じがしました。世界が突然変わってしまったように思えたのです。自分の体が下へ落ちて行っているのを感じて…

ドスン！

私は、目が覚めると部屋の床の上に横たわっていました。私はゆっくりと姿勢を正して周りを見ました。すべてが普段と同じように見えました。私は自分の両手を見ました。私はもはや手が毛皮で覆われていないのを見てほっとしました。私は立ち上がってあくびをすると、背中を伸ばすために両手を頭の上で伸ばしました。私はいつもの朝の習慣通り、何も考えず、充電が終わったスマホのある机まで歩き始めました。そして…私は立ち止まりました。

一瞬停止した後、私は向きを変え、朝食をとりに階段を降りていきました。

問1 「ユージは自分が猫になったと気づいたとき、最初は□」

- ① 驚いた
- ② 当惑した
- ③ 興奮した
- ④ 満足した

問2 「ユージの母親が彼に話しかけたとき、彼はいらいらした。なぜなら□から」

- ① 彼は母親を喜ばせたかった
- ② 母親の言葉が彼の邪魔をした
- ③ 彼の口は食べ物で一杯だった
- ④ 母親が彼の勉強を中断させた

問3 「猫は『こいつは嫌なやつだ』と思った。なぜならユージが□から」

- ① 朝食で食べた食べ物の味を思い出すことができなかった
- ② 期末試験のために勉強する努力を隠そうとした
- ③ 母親が彼の将来を心配することをからかっていた
- ④ 自分の周囲の人や物に敬意を示していなかったから

問4 「物語の最後でユージはスマートフォンを手にとらなかった。なぜなら、彼は□から」

- ① 自分の態度を改める時だと決心した
- ② スマートフォンがまだ十分に充電されていないことに気づいた

- ③ 自分の昔からの優先順位に固執したいと思った
- ④ 母親に叱られるのを恐れた

問5 「この物語の主題は何か」

- ① 猫は人間よりもずっと優れた感覚を持っている
- ② 自分自身を観察することは自己変革につながる可相生がある
- ③ スマートフォンを使う人は奇妙に見える
- ④ 信じられないことが夢の中で起きる可能性がある

【正解】 問1① 問2② 問3④ 問4① 問5②

～第6問(論説文型長文問題) 解法のまとめ～

(1)第6問も、設問の順序とストーリー展開が一致している。

(2)本文[問題文]を読み進める前に、先に設問に目を通し、キーワード(と思われる語句)に下線を引いておく。

☞キーワードとは、主要品詞、つまり「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」など。中でも最大のキーワードは「名詞」。

設問が万一複雑な場合には、余白に要旨をメモ書きしておくのもいい(ただしあくまでメモ書き。これに時間をかけすぎないこと)。

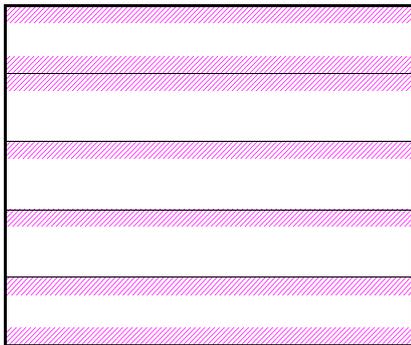
(3)ここまでできたら、次に本文のまずここを読め。

①第1パラグラフと最終パラグラフだけは第1文[冒頭文]と最終文。それ以外のパラグラフは第1文[冒頭文]のみをまず読む。

☞第1パラグラフと最終パラグラフについては、2～3行程度の短い構成のものならこの時点で(冒頭と最終文のみと言わず)全部読んでしまってもいい。

☞冒頭文の内容が情報としてあまりに不完全な場合は、その直前・直後の英文も読むのもいい。

②逆接語で始まる英文(もしくは逆接語が挿入されている英文)、「私は思う」系のフレーズ(I think[believe]…、In my opinion など)のような語句を含む英文もあればそこも読んでおく。



+ ①逆接語で始まる(または挿入された)英文  
②I think[In my opinion…]などのフレーズを含む英文

Bの設問の表中に、(そのパラグラフの)Content が示されている場合は、それを(対応パラグラフの冒頭文を読む前に)先に読んでおくといい。

(4)次に、この時点での情報で

①本文の主旨やテーマやタイトルなどを問う設問。☞Aの最後の設問はこのタイプが多い。  
②Bの設問。

が解けることが多い。

☞Bの設問について、そのパラグラフの冒頭文を読んだだけでは答えを特定できない場合は、

①(そのパラグラフの)最終文も読んでみる。

②それでも答えを特定できない場合は、後回しにする。

(5)それ以外の設問についても、この時点での情報で解けるもの、また消せる選択肢がないかチェックしてみる。

(6)(部分読みでは)解ききれなかった設問については、もう一度キーワードを(この時点では選択肢も含め)チェックし、本文[問題文]中に対応箇所を探し出していく。

☞この時点では、選択肢も含めてキーワードをチェックし直す。

(7)その結果、あるパラグラフを全読みしなければならなくなった場合は、

①基本は「読みながら解きながら」。

②そのパラグラフを2分割[3分割]し、分割した所までで一旦読みを止め、そこまでの情報で正解となる選択肢や消せる選択肢を探してみる。

(8)下線部の意味を問う設問に対する考え方は、第3問Bと同じ。つまり「論理」「指示語」「文脈」をヒントにする。解答を導く対応箇所は、大半は下線の前後にある。

(9)選択肢の先読みに関するアドバイス。

①選択肢が短い、又は読みやすい場合には、しっかり四つとも読んでおく。

②選択肢が長い、構造が複雑な場合には、キーワードに下線を引くだけにとどめる。

③設問だけで対応箇所を探す十分な情報が手に入った場合には、読まない。

☞第6問は③タイプが多い。

④程度があまりに著しい語(甚だしい)語(全て、必ず、絶対、唯一……)を含む選択肢は、不正解の可能性が高い。

|                                      |                     |                            |           |
|--------------------------------------|---------------------|----------------------------|-----------|
| (ex) absolutely「絶対に」                 | all/every「すべての～」    | invariably「いつも」            | any「いかなる」 |
| only「唯一の～」                           | few/little「ほとんど～ない」 | without exception「例外なく」    |           |
| never「決して～ない」                        | without fail「間違いなく」 | (almost) always「(ほとんど)いつも」 |           |
| necessarily/certainly/definitely「必ず」 |                     |                            |           |

## 《語句》

psychologist: 心理学者  
point out that S+V~: ~を指摘する  
well-established: しっかりとした  
lead A to B: AをBに導く  
note that S+V~: ~を指摘する  
face A: Aに直面する  
conflict: いさかい  
acquaintance: 知人  
A result in B: AはBの結果に終わる  
fortunately: 幸いなことに  
occur: 生じる  
maintain A: Aを維持する  
in trouble: 困っている  
keep in touch: 連絡を保つ、取り続ける  
hurt A: Aを傷つける  
response: 反応  
cut off A: Aを断ち切る  
avoid A: Aを避ける  
graduate: 卒業する  
hear from A: Aから連絡がある  
  
in the end: 結局  
force O to do[彫]~: Oに無理やり~させる  
ignore A: Aを無視する  
disappointment: 失望、落胆  
immediately: すぐに  
apologize: わびる  
catch up with A: Aに追いつく  
mention A: Aについて語る  
point of view: 観点、視点  
be upset: 困惑する  
be hospitalized: 入院する

instead of ~ing: ~する代わりに  
sympathy: 共感、同情  
deal with A: Aを扱う、Aに対処する  
recognize A: Aを認識する  
evolve: 進化する  
once S+V~: 一度~すると  
in other words: 言い換えれば  
alter: 変化する  
nature: 性質  
keep in mind that S+V~:  
~を心に留めておく  
  
secret: 秘訣  
misunderstanding: 誤解  
dispute: 論争  
cause O to do[彫]~: Oに~させる  
viewpoint: 観点  
those who V~: ~する人々  
argument: 口論、議論  
precious: 貴重な  
not ~ always:  
必ずしも~というわけではない  
stable: 安定した  
connection: 関係  
ups and downs: 浮き沈み  
things: 事態、状況、事情  
go bad: 悪くなる  
get A back on track: Aを元に戻す  
appreciate A: Aを理解する  
regardless of A: Aに関係なく  
state: 状態  
continue to do[彫]~: ~し続ける

## 【全訳】

(1) ほとんどの人々にとって、友情はその人の人格の貴重で重要な一部です。心理学者たちはしっかりした友情によって我々は自分自身をよりよく理解できるようになる、と指摘してきました。彼らはまた、我々は知人だけでなく、親友とさえ対立に直面するかもしれず、その結果友情のいくつかは終わってしまうかもしれないということも指摘してきました。幸いなことに、そのような対立が生じたときでさえ、友情を維持する、もしくは壊さずにおく方法を見つけることは可能です。

(2) 面倒な状態に陥った友情を壊さないのに役立つ1つの方法は、接触を保つことです。友達が我々の気持ちを傷つけるようなことをしたと思ったとき、私達の最初の反応は、接触を断つことでしょう。しかし、プライドを飲み込んで、そんなことはしない方がよいでしょう。たとえば、メアリーは、友達のスーザンが夜間学校を修了して卒業するまで、彼女の子供たちの面倒を毎週見ていました。しかし、その後メアリーは、スーザンから数ヶ月間連絡をもらいませんでした。したがって、彼女はスーザンが単に自分を利用していただけだ、と感じました。彼

女はもうスーザンとは口をきかない、と決めました。しかし結局、メアリーは無理して自分の感情に目をつぶって、スーザンにがっかりした気持ちを伝えました。スーザンはすぐに謝り、学業を終了した後、いろいろな物事の遅れを取り戻そうとしていただけだと彼女に語りました。メアリーがそのことに触れなかったら、スーザンは問題が生じているとは知る由もなかったでしょう。怒りを感じているかもしれないときでさえ、接触を断たないことが、よい人間関係を維持するのにとても重要です。

(3) 友情の助けとなるもう1つの方法は、友達の視点から物事を見ることです。たとえば、病院に見舞いに来てくれなかったために、マークは親友のケイトにとっても腹を立てていました。後になって、彼はケイトの友達から、幼少期に重病で入院して以来ずっと、ケイトは病院を怖がっていた、ということを知りました。その時、マークはケイトがなぜ来なかったかを理解し、怒るところか、彼女に同情を感じたのでした。

(4) 友情にうまく対応する大切な要素は、我々のニーズや生活様式が変化するにつれて、友情も変わることがある、ということを知ることです。たとえば、高校で親友がいたとしても、いったん卒業して、仕事や勉強のために別の都市に引っ越したり、結婚したりすれば、その友達に会う回数も減り、私達の気持ちも変わるかもしれません。言い換えれば、親密な友情も性質が変わる可能性があるということです。依然として友達同士ではあるものの、以前と同じような形ではないかもしれない、ということを知っておく必要があります。

(5) 人はどのようにして長期間友情を維持するのでしょうか。その秘訣を探るため、研究者たちが長期間友人同士であり続けた多くの人々にインタビューしました。彼らの発見によれば、そういう人々は、小さな誤解が友情を終わらせてしまうような大きな言い争いに発展しないようにしていました。友達の視点に立ち、恐れずに正直な気持ちを表明することで、インタビューを受けた人々は、小さなことが大きな口論に発展することを防ぐことができたのです。

(6) 私達は皆、友情が貴重なものだと思っていますが、友情がいつも不変であるわけではない、ということもまた理解しています。友情を維持する上で難しいのは、あらゆる人間関係につきものの浮き沈みの間にも接触を強く保つことです。物事が順調に進んでいるときには、友情を楽しめるものです。物事がうまくいかないときには、上記の点を思い出すべきです。人間関係を元に戻せることもあります。人間関係は変わることがあるということを受け入れ、認識しなければならぬときもあります。しかし、友情がどのような状態にあれ、友情は我々の人生の大切な一部であり続けるでしょう。

A

問1 「段落(1)によれば、心理学者は友情について何と言っているか」

- ① 友情はしばしば人の所有物と比較される
- ② 友情は不安定になると修復することができない
- ③ 友情は我々が知人と対立する原因になる可能性がある
- ④ 友情は我々が自分自身について知るのに役立つが問題を起こすこともある

問2 「段落(2)の『プライドを飲み込む』の意味に最も近いものは次のうちのどれか」

- ① 誰かに感謝する
- ② 自分の感情を抑える
- ③ 問題が起こることに気づく
- ④ 誰かに会うのをやめる

問3 「段落(5)によれば、研究によって□□ことが大切だということがわかった」

- ① 自分の本当の感情を表現するのをためらう
- ② 誤解と言い争いを無視する
- ③ 問題を我慢できるときはいつでも我慢する
- ④ 間也が小さいうちに解決する

問4 「段落(6)によれば、友情を維持する上で難しいことは何か」

- ① 新しくかつ興味深い友達を見つけること
- ② いつ関係を変えればよいかを知ること
- ③ 友達に問題があるかどうか確かめること
- ④ うまくいかないときも親しいままでいること

問5 「この文章にタイトルをつけるとすれば何が最も適当か」

- ① 長続きする友情へのアドバイス
- ② 自分と友達を守ること
- ③ 友情への鍵となる力
- ④ 友情の変化する性質

【正解】 問1④ 問2② 問3④ 問4④ 問5①

## B

| 段落  | 内容             |
|-----|----------------|
| (1) | 友情は大切だと気付くこと   |
| (2) | 52             |
| (3) | 53             |
| (4) | 54             |
| (5) | 55             |
| (6) | 心に留めておくべき大切なこと |

- ① 長期間続く友情に関する研究の結果についての報告
- ② 友達の観点から状況を見ることの重要性
- ③ 友情が変化していかざるをえないことを理解することの意義
- ④ 友達と連絡を取り続け交流することの価値

【正解】 52 ④    53 ②    54 ③    55 ①